

ちばしゃ通信 (Vol. 4)

創立 10 周年イベント 「ときがねフォーラム」レポート

♪はじめに

平成 27 年 2 月 1 日、東金市の中央公民館を会場に、NPO 法人ちば地域生活支援舎、創立 10 周年を記念するイベント「ときがねフォーラム」を開催しました。この企画は、「これまでお世話になった、本人（利用者）及び家族、地域の皆様、福祉関係者にお礼と活動実績の報告、今後の方向性を改めて表明すること」、「企画に参加するみんなで楽しむこと」の 2 つを目的に開催しました。イベントの実施は、1 年前から考えていたものの、アレコレ対応しているうちに半年経ち、理事会及びこれまでお世話になった皆さんにご相談をしていたらあっという間に、2 か月前の 12 月になってしまい・・・バタバタと準備することになってしまいました。

それでも、山武ボランティア協会（通称：サンボ）の皆さんや、きもの地サロンに関わる皆さんなどの多大なる協力のお陰でなんとか開催することができました。

当日は、本人（利用者）及びその家族、区長や民生委員、ボランティア、ご近所さんなどの地域の皆様、山武郡市や千葉県内の福祉関係者、行政・議員関係などのべ 350 人ぐらいの方々がおいでくださいました。

♪式典（午前の部）

式典のオープニングは、障がい当事者で結成する「つばさ太鼓」の演奏。終了後、代表理事の宮下裕一より、ご来場いただいた皆様にお礼のご挨拶をさせていただきました。続いて、志賀市長より鴉嶺の家



（式典：オープニング）



（式典：宮下代表理事の挨拶）



（式典：志賀市長の祝辞）



（式典：就労メンバーの PR）

開設当初の秘話や励ましのお言葉を、石橋県議には、地域に根付いた活動の評価を、

齋藤施設長（特別養護老人ホームゆりの木苑）には、10年間の実践と現場職員の取り組みを労い・評価するお言葉を頂戴しました。

事業・活動紹介では、東金市内8拠点で活動する各管理者から活動報告をし、今後の方向性も紹介させていただきました。また、就労支援部門では、メンバーにも登場して頂き、商品等の紹介も行いました。

式典の最後は、日本財団から福祉車両2台（ステップワゴンとハイゼット）を寄贈いただいた旨の報告をさせていただきました。

♪ 記念講演（午前部）

記念講演は、鹿児島県のトカラ列島の宝島と霧島、北海道の幌加内町で小規模多機能型居宅介護の取り組みをしている黒岩尚文さんにおいて頂き、霧島市地域密着型サービス連合会の副会長として、第6期介護保険事業計画を行政と事業者、市民と共に策定している実践のお話や、人口約100人・70世帯の島、宝島や人口1,600人の過疎地域の幌加内町で、住民と共につくる介護サービスや支援づくりのお話をお聞きしました。

自らのまちの今後の福祉・介護について、行政と介護事業者、地域住民がしっかりと話し合い、共通理解のもと行動することの大事さを学ばせていただきました。

♪ 特別企画（午後部）

特別企画は、新潟県の岩船地域で、住民参画のまちづくりを推進している齋藤主税さんにおいて頂き、「まちづくりの視点とツボ」「住民と企業、行政のパートナーシップによる地域社会づくり」「様々な実践事例」等をお話いただきました。

参加した一人ひとりが、いろんな形でまちづくりに携わっている方々でもあり、その思いが伝わってくる雰囲気の会となりました。



（記念講演：黒岩さんによる講演）



（ステージ企画：腹話術）



（ステージ企画：フルート演奏）



（ステージ企画：ファッションショー）



（ステージ企画：ありっぱ演奏）



(ステージ企画：エンディング)

♪ステージ企画（午後の部）

ステージ企画は、山武ボランティア協会の菱木さんの素晴らしい音響設備の中、東金・山武を中心に活動する9グループの皆さんの演奏やダンス、ファッションショーなどが行われました。

約3時間にわたるステージ企画を、鶺嶺の家やぼけっと、ハンドワーク、五根の家等を利用している利用者・メンバーが、曲に合わせて飛び跳ねたり、一緒に踊ったり、歌ったり、座って微笑みながら眺めたりと、思い思いの楽しみ方をしていました。また、利用者の家族や地域の皆さんも、そんな

利用者・メンバーの姿に笑みがこぼれていました。

♪おわりに

「ときがねフォーラム」を通じて、私たちは利用者・メンバー、その家族、地域住民、福祉関係者、公的機関・団体など本当に多くの皆様に支えられて、この10年間やってきたことを改めて実感させられました。

その重みをしっかりと感じ、これからさらに、「誰もが安心して普通に暮らせる地域（東金）づくり」に取り組んでいきたいと思えます。



(多くの皆さんに支えられてきました！)

理事からのメッセージ



私は、農業の傍ら、山武ボランティア協会に所属し、身体が思う様に動かせない方・うまく表現が出来ない方達（障がい者）の食事介助、移送支援などの生活支援のボランティア活動をしてきました。山武ボランティア協会（通称：サンボ）とは、1984年春の「わらび座」公演の実行委員会をきっかけに発足し、山武圏域を中心に多様な職業の人たちがゆるやかにつながり、地域の課題や一人ひとりの困りごとに「このゆびとまれ」方式で関わり、楽しみながら活動するグループです。

平成16年にちば地域生活支援舎（通称：ちば舎）を開設する際に、「本人の思いや願いをうけとめ、生きる力を地域で支える」という理念に共感し、サンボに関わるメンバーも、一緒に活動することになりました。ちば舎は、開設当初、スタッフ3人で、かつ県外から移り住んできましたので、地域の多様な人とのつながりが全くありませんでした。

そこで、鶺嶺の家を会場に、サンボのメンバーで「男厨（男の料理）の会」を開催しました。「男性人が、日頃お世話になっている女性に美味しい料理をつくってもてなそう！」というキャッチコピーのもと、農業をやっている人、商店をやっている人、公務員、サラリーマン、職人さんなどなど、いろいろな人たちが集まって、餃子をつくったり、レバニラをつくったり、ピザをつくったりして、みんなで楽しく懇親し、鶺嶺の家を知ってもらおう機会づくり、人と人のつながりづくりの応援をしました。

あれから10年！現在「男厨（男の料理）の会」は中断していますが、その当時楽しみながら紡いできたつながりが、着実に実になったと思えます。

話は変わりますが、「サンボ」も間もなく記念すべき100号目の広報誌発刊です！

ゆるく！楽しく！安心して暮らせる地域づくりのために…ちば地域生活支援舎と共にさらに発展していけたらと思えます。

土肥豊（理事／山武ボランティア協会・事務局長）

【法人内の各事業所から】

鴛嶺の家（高齢者・障がい者）

先日法人10周年イベントがありました。現在ご利用されている利用者さん、そのご家族だけでなく以前利用されもう亡くなっている方のご家族の方も来て下さり、とても嬉しかったです。ステージ企画では利用者さんも一緒になって前で踊るなどたくさん楽しみました。

鴛嶺の家（児童）

年中さんの男の子。髪の毛の長い綺麗なお姉さんが好きです。言葉はないけれど、こっちの方が好き！と言うように結ってある髪をほどこいてまわっています。



子ども支援センターぽけっと

10周年イベントで使う写真を整理した際、小さい時から利用されている子どもたちの幼少写真がたくさん出てきました。彼らは今年高校生になったり、高校を卒業する歳になります。法人と一緒に大きくなった子どもたちの姿を見て時の流れを感じました。これからも彼らと共に成長していけるよう頑張っていきたいと思えます。

サポートセンタースピリッツ

年度末がだんだんと近づいて来ました。新年度に向けて期待と不安に胸を膨らませている人たちがたくさんいるでしょう。年度が変わるとたくさんの変化があるので、年度初めはみなさん、落ち着かないことが多いと思えます。そんな中、顔なじみのヘルパーと会うことでちょっとした安心感を与えられたらと思えます。

街かど福祉相談室ると

春は卒園・卒業のシーズン、新しい生活が始まる方も多いと思えます。るとでも来年度に向けての準備に日々追われています。サービスの変更がある方は、お早めにお知らせください。



ハンドワーク

2月1日の10周年記念式典では、ご来場の皆様にクッキーやカップケーキ、ソーイングボックスをたくさんお買い上げ頂きました。利用者さんの励みになりました。今後も、色々な方にご利用して頂ける様頑張っていきたいと思えます。ありがとうございました。

ありさ

ときがねフォーラムでは、「ありさの愉快的仲間たち」が全開でしたが、活動内容の紹介で販売や写真展示をしました。2/22(日)には、今年度最後のイベント出店【山武市民活動フェスタ】がのぎくプラザで10:00～開催されます。お暇があれば、ぜひ見に来てください。

かばの家

年が明けてもう1ヶ月が終わってしまいました。10周年イベントも無事に終わり、後は毎日一生懸命パンを作る日々になります。3月末には、かばの家の親睦会が予定されていますので、それまで頑張ります。

五根の家・グループホーム

開所当初よりご入居されていた方が2月7日ご逝去されました。2月1日の法人10周年イベントが、ご夫婦と一緒にゆっくりと過ごされた最後の時間となりました。スタッフ一同、心よりご冥福をお祈りいたします。

五根の家・小規模多機能ホーム

2月1日の法人10周年イベントにたくさんの方が参加されました。歌に合わせて手拍子をしてしながら身を乗り出す方や、ベリーダンスやマジック等をじっと見ている方がいたり、それぞれ楽しんでおられました。



ちばしゃ通信 (Vol4)

発行日：2015年2月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630

編集者のつぶやき

- ・ず～っと気になっていた10周年企画が終わった…
- 「改めて、“地域の大事さ”と“続けることの重要性”を実感させられた！SやNが来てくれたのはとても嬉しかった。一方で、MやAと一緒にむかえられなかったことが、とても残念で悔しい」などなど…
- でも、私の中の10周年はまだ終わらないままだ(Jerry)
- ・法人10周年イベントも沢山の人のおかげで無事に終わることが出来ました。これから年度末に向けて忙しくなると思いますが、体調に気を付けて頑張りましょう！(W)